

児文研だより

令和6年6月7日

No. 1

【安部（小倉小）】

自然なかかわりを大切にしていけるために

会長 川崎市立向小学校 校長 若狭 美加

新型コロナウイルスが5類になって1年が経ちました。マスクを外した明るく、弾けるような子どもたちの笑顔は本当に素敵だと思います。表情がしっかりと見えることにより、子どもたち同士、先生と子どもたちの関係も安心感があるようにも思えます。心の距離が縮まると笑顔が増え、互いに相手を思いやる言動も増えていきます。そんな自然なコミュニケーションや関係づくりを今年も大切にしていきたいものです。

本研究会では、表現力とコミュニケーション力を高める活動を通して、研究主題である「主体的に活動し、豊かな人間関係を築く子どもの育成」を目指して研究に取り組んでいます。研究の重点として、「教科、領域の目標及びねらい達成のための、演劇的表現活動を取り入れた授業実践」と「人間関係力育成のための、日常的な演劇的表現活動の実践」を行っています。7月と1月に授業研究会・研修会、7月30日小教研究大会での分科会発表、8月は夏期研修会と缶詰めになって書く会（脚本作成及び学芸大会参加校の脚本選び、練習方法や演出などの支援）などを予定しております。

教科のねらいを達成するためには、まず学級づくりが基盤となってきます。演劇的手法などを用いながら子どもたち同士をつないでいき、豊かなかかわりを通してよりよい集団を作り上げていきたいと思えます。人間関係づくりのヒントになる研修を準備しています。多くの方と一緒に今年度も研究を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

◆研究会研修会報告

自己肯定感を育む表現の授業

～前向きに生きる力をつける演劇ワークショップ3～

講師 こども教育宝仙大学非常勤講師 照屋 洋先生

日時：令和5年5月8日（水）午後2時半より

会場：川崎市立向小学校

今年もこども教育宝仙大学非常勤講師 照屋洋先生を講師にお招きして、ワークショップを行いました。

実際に体を動かしながら、子ども同士を演劇や表現を通してつないでいく方法について教えてくださいました。教師自身が体感し、それをクラスに還元してほしいとおっしゃっていました。

◆アクティビティ紹介

○バースデーサークル

- ・誕生日の順番に並んでいく。日付も聞いてコミュニケーションをとる。
- ・円になったあと、番号をふると人数の確認になり、そのあとのグループ分けもすることができる。

講師の 照屋洋先生

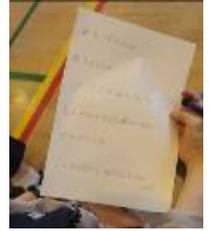


○他己紹介あいうえお作文

- ・二人組をつかって、自分の名前であいうえお作文をしながら自己紹介をしていく。
例えば、「あべ」なら、「**あ**かるい性格でよく笑います。**べ**んりな道具には目がありません。」など
- ・自分の特徴や伝えたい事柄などを中心に話をしていき、ペアの相手をみんなに他己紹介する。
☆相手のことを伝えるとなると、よりくわしくその人のことを知ろうとすることができる。

○互い違いに1・2・3

- ・ペアを組み、最初に言う人を決め、互い違いに「1・2・3」と順番に言う。
- ・だんだん難しくして、「2のときに手をたたく。」にすると、「1・パン（2で手をたたく）・3」と交互に言っていく。
- ・そのように、1や3でも動きを付け加えていく。
- ☆間違えてしまったとしてもそこから笑顔がうまれる。「間違えることはいいことである。」と伝えて良い雰囲気にしていくことができる。



○数字に表情をつけて・・・

- ・1から20までの数字を交互に言っていく。
- ・ある一定の数字だけ表情を付けたり、お互いに役割を分担して、その人になりきりながら数字を言ったりする。例えば、会社の上司と部下に分かれて、数字を言う時に怒ったり、悲しんだりして伝える。
- ☆伝えたい意志をもって数字を伝えるようにすると、「もしかしてあんなこと言っていた？」と相手に気持ちが伝わる。



○進化論じゃんけん

- ・最初はさかな、じゃんけんに勝っていくと鳥、猿、さいごは人に進化する。
- ・負けたら一つ前の進化に戻ってしまう。最後まで勝てたら人に進化してゴール！
- ☆1番最初に勝った人が王様になれる、王様はじゃんけんに負けると変わってしまうなどのルールを付け加えたり、みんなで負けてしまっている子たちを応援したりすると、終わってしまった子も一緒になって楽しむことができる。

○ストップ！ポーズ！

- ・自由に歩き回って「かけ足！」の声掛けのあと、お題を伝える。
- ・お題は、椅子、ピアノ、クロワッサン、木、花など言われたお題になりきってもらう。
- ☆かけ足のあと、お題を言うにより即興性のある表現になる。動作指示や正解不正解がないような声掛けをするとよい。
- ☆表現はその子それぞれ。正解を探してしまう子にしないように自由に表現させたい。

〈研修の感想より〉

- ・初めて参加したのですが、明日からクラスで使えるような活動ばかりでした。緊張していたのですがすぐにリラックスができ、研修に来ることができてよかったです。可能性をつぶさないこと、子どもの想像力の幅を狭めないように声掛けや指示を工夫していきたいと思いました。
- ・体が温まると心が温まり、体も表情も柔らかくなっている自分を感じました。子どもにも体験してもらおうと思います。
- ・間違いが、認め合う・あってもいいものとして扱うことが今までの自分の価値とは違ってはっとさせられることばかりでした。自分を表現することの楽しさを自分も伝えられるようになりたいです。

ぜひ、ご参観ください！

第1回授業研究会・研修会のお知らせ

日時：令和6年7月3日（水）

場所：川崎市立金程小学校

学年・教科：2年・生活科 授業者 浦 綾教諭

研修講師：向小学校 校長 若狭美加

助言者：児童文化研究会 OB 千野隆行